

「どこか懐かしく温かな気もちになる農村民泊体験」 日本有数の農業地帯が行う農泊事業



2019年9月10日 2019年度第3回(通算137回)農山漁村コミュニティ・ビジネスセミナー【講師】一般社団法人南島原ひまわり観光協会 鴨内悟史氏 ひまわり村 村長 楠田 耕三氏 を開催しました。

魅力的なグリーン・ツーリズムの推進による農泊事業の展開方法を学びました。

事業展開には、組織づくりが極めて重要なポイントです。先進事例の良いところを吸収し、自分たちの地域にあったスタイルを作りつつ、それを運用する固有の人材が存在することが事業成功の王道です。今回のセミナーでは、そんなことを強く感じました。

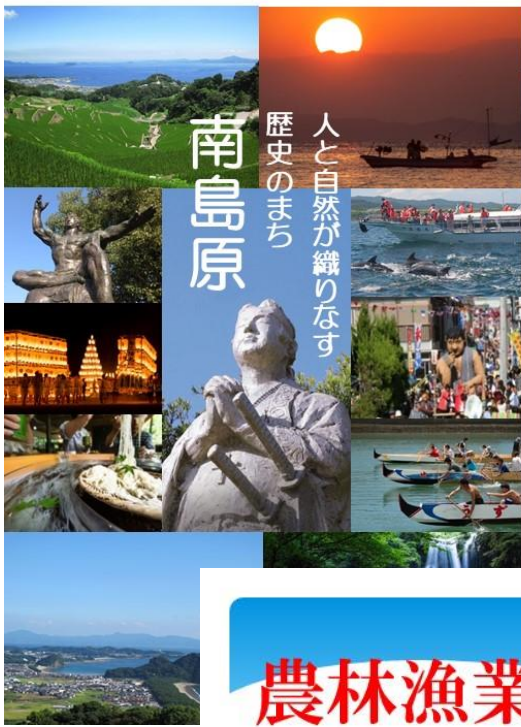
ひまわり村の村長は、体験民泊の受入農家の代表です。楠田村長は、イチゴ農家。

「台湾からお客さんが、イチゴを食べて、身振り手振りで大喜びをしているんですよ。こんなおいしいイチゴをありがとうございます。そして私に、2千円ほどを握らせてきたんです。昔、日本のお年寄りがチリ紙におひねりを包んで渡すように、“あんた取っというて”と。言葉は通じなくても同じなんだと、涙がでるほど嬉しかった。自分たちが丹精込めて作ったイチゴをこんなにも美味しいと喜んでくれるんですもん。農家にとって、交流はやめられませんよ。」

修学旅行で当地を訪問した親から、子どもが大変お世話になったので、「ふるさと納税」をさせていただきます。と地域のPRにも大きな手ごたえを感じています。ご家庭でどのような会話があったのでしょうか。子どもの話を聞いてお母さんも感じる事があったのでしょうかね。

農家民泊を受入る農林漁家は、こどもたちの送迎の車を買替えたりと地域全体にお金が回り出しています。

トイレなどを改修する費用を市は独自に補助金を出して支援しています。食事も体験も普段の農林漁家の生活のある姿と一緒に生活してもらって体験してもらって。それが農林漁家と都会の子どもたちの交流として花開いています。苦労もあるけれど人と人のほんものの交流が南島原のひまわりのように咲いていました。講師の鴨内さん、楠田さん、またセミナー参加者の皆さん、ありがとうございました。



南島原

人と自然が織りなす
歴史のまち

長崎県
NAGASAKI

(一社)南島原ひまわり観光協会

令和元年度農山漁村コミュニティビジネスセミナー資料
(R1.9.10)

どこか懐かしく温かな気持ちになる 農村民泊体験

～ 地域が光り輝く観光地を目指して ～

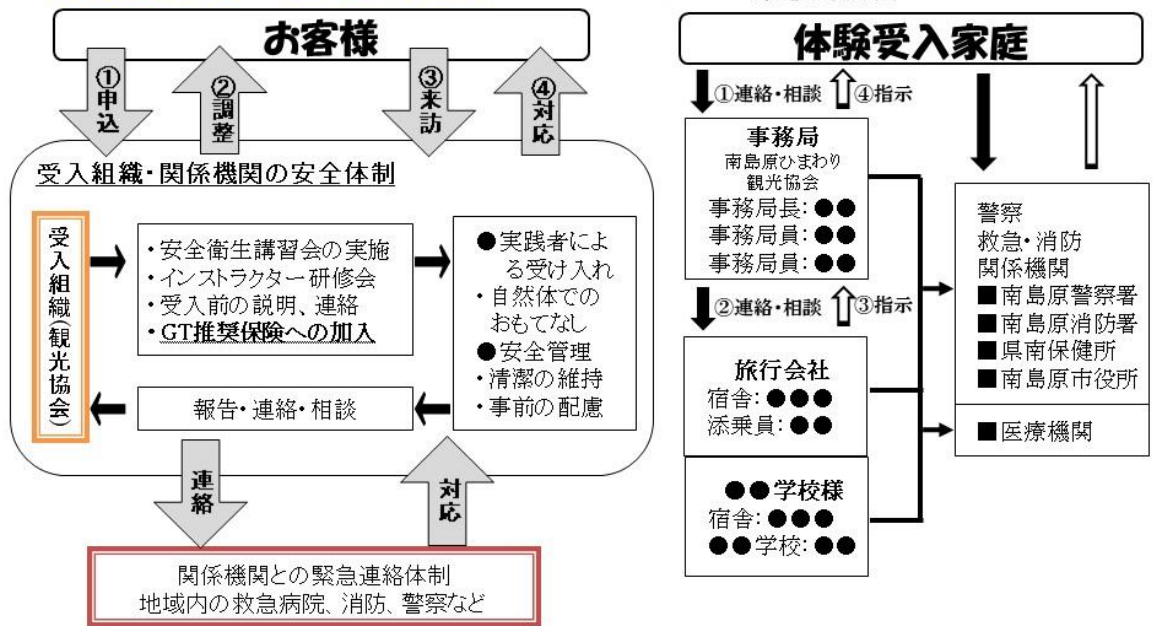


農林漁業体験民泊

業務受付・連絡体制について



ひまわり四郎くん



農林漁業体験民泊

修学旅行受け入れ＜お出迎え＞

17



『みんなで大歓迎』

南島原市への波及効果

47



■総務省が公表している産業連関表によると、民泊の経済波及効果は売上額の約1.7倍。(受入家庭以外の飲食料品や燃料、寝具などの繊維製品などへの波及)
また、直接的な効果とは異なるが、本市で民泊が行われている家庭の7割超は施設整備補助金を利用しており、同様に建築業種の経済波及効果は約2.0倍。これに従い平成27年度実績の経済波及効果を換算すると...

【平成27年度経済波及効果】 236,000千円
(民泊) 利用者 12,388人/年
売上額約100,000千円×1.7=170,000千円
(施設整備) 利用軒数 13軒/年
改修総額 33,000千円×2.0=66,000千円

■SNSなどの普及により民泊利用者がリアルタイムで情報発信されることによる宣伝効果も大きい。

■民泊を受入れる家庭だけでなく、周辺の地域住民が理解を示し、受入れの協力をして下さったり、お客様に声をかけて下さるような環境となってきた。